

今年は桜の開花が例年より早かったせい、山々の木々の緑や、可憐な花々もいつもよりその季節の訪れが早いように感じられる今日この頃となりました。会員の皆様にはご健勝にて活躍のことと存じます。

母校も四月六日に第五十六回入学式が盛大に挙行され、新入生五二五名が太平台で高校生活に勤しむこととなりましたし、新学期早々野球部が関東高校野球大会に出場し、その活躍が地元紙に大きな活字で報じられましたことは誠に頼もしく喜ばし



会員の皆様へ

日本人と命

同窓会会長 中 磨 輝 美

同窓会報

むらとま

い限りであります。

命の尊さ

本年は戦後七十年の年にあたり、戦争の悲惨さや命の尊さが大きく報じられております。今や世界中でそれぞれ自分たちが正しいと主張して紛争が絶えず、国内においても毎日といってよい程痛ましい事件や事故が起きており、命の大切さ、尊さが叫ばれております。

私たち日本人は四季の移ろいの中に自然の営みの素晴らしさを感じ、自然と一体となり連綿と暮らしてきて培われた独特の感性を持っているといわれています。それ故に命についても独特の考え方を持っています。

「中今」とは

日本には八世紀頃の『続日本

紀（かほま）の宣命に四例ほど見える「中今」という語があります。



創立四十周年記念館

過去と未来との真中の今、遠い無限の過去から遠い未来に至る

発行者 國學院大學
 行 院 大 学 校 会
 学 院 高 等 学 校
 同 窓 (〒 328-8588)
 栃木市平井町08番地
 電話 0282-22-5511

第 38 号

問の今という意味だそうです。そして現在私たちは「中今に生きている」のです。命の連続の流れの中で中心点に今存在しています。人は誰にも父母がいて、自分が存在します。そしてその父母にも父母がいて、自分が存在します。つまり自分を中心に過去にむかって限りなく網の目のように命が広がっています。そしてそのうちの一人でも欠けてしまうと自分も存在なくなります。更に今の自分に子供が生まれ、孫ができ、曾孫ができるといようにずっと命が続いてゆきます。ですから今の命を粗末にするわけにはいきません。自分が悪いことをすれば親やご先祖様に申し訳がないと考え、正しい生き方をして親やご先祖様に喜んでいただくよう、命を大切にしたい行いをするよう努めてきました。これが日本人が古来より受け継いだ考え方なのであります。

日本人とは何か

現在の世情、特に青少年の将来を考える時、もう一度「日本人とは何か」ということを教えるべき時にきていると思います。その点我が母校はそれらのことが建学の精神にあり、正にそれを実践していることに誇りを感じ



じる次第であります。

更なる発展を

同窓会も昨年は第二十二期生の卒業三十周年の集いが栃木サンプラザにおいて、二百余名が出席して盛大に開催されました。本年は二十三期生の卒業三十年の集いの会が開催される予定となっておりますので盛会を祈念する次第であります。

本年も二月二十八日卒業式の前日に四十周年記念館で同窓会入会式が行われ、二十六年卒業生を含めて同窓生は三万四千人を超えることとなりました。

会員の皆様方には今後其母校発展の為に、更なるご支援、ご協力の程宜しくお願い申し上げます。